

羽生市 橋梁長寿命化修繕計画

【 概 要 版 】

令和7年4月

 羽 生 市

1. 計画更新の背景

- 羽生市では、道路交通網への影響や維持更新費用が掛る規模の大きな橋梁として、主要な幹線道路では橋長 10m以上、その他の市道では橋長 15m以上を対象に橋梁長寿命化修繕計画（以下、修繕計画）を平成 24 年度に立案し、平成 26 年度より修繕事業を実施して参りました。
- 平成 26 年 6 月に橋梁の定期点検に関する省令・告示が施行され、橋長 2m 以上の橋梁に対して国が定める統一的な基準で 5 年に 1 度、近接目視による点検を行うこと（定期点検）が義務化され、2 巡目の定期点検が完了し、3 巡目を迎えております。
- 2 巡目の定期点検として平成 31 年度から令和 5 年度までの 5 ヶ年で、市内全 356 橋の定期点検を行い、各橋梁について健全性の診断を行いました。
- これらの結果を踏まえ、長寿命化修繕計画の更新を行いました。

表-1 管理橋梁数および修繕計画対象橋梁数

	1 級市道	2 級市道	その他市道	合 計
全管理橋梁数 (R6 対象橋梁数)	41 橋	38 橋	277 橋	356 橋
R1 対象橋梁数 (※1)	39 橋	38 橋	281 橋	358 橋
H24 対象橋梁数 (※2)	10 橋	9 橋	3 橋	22 橋

※1. 橋長 2m 以上の橋梁が対象

※2. 重要路線（1 級市道、2 級市道）に架かる橋長 10m 以上の橋梁及びその他路線に架かる橋長 15m 以上の橋梁が対象

2. 目的

- 長寿命化修繕計画の対象橋梁 356 橋について、2024 年時点で供用後 50 年を経過した高齢化橋梁は 21 橋（6%）ですが、10 年経過すると 27 橋（8%）となり、将来的に高齢化橋梁の増加が見込まれます。また、多数存在する建設年の不明な橋梁の中にも老朽化している橋梁が見られます。
- 高齢化に伴う老朽化が進行することで維持管理費の増大が予想され、「持続可能なインフラメンテナンス」を実現するために維持管理費の縮減や事業の効率化を目指す必要があります。

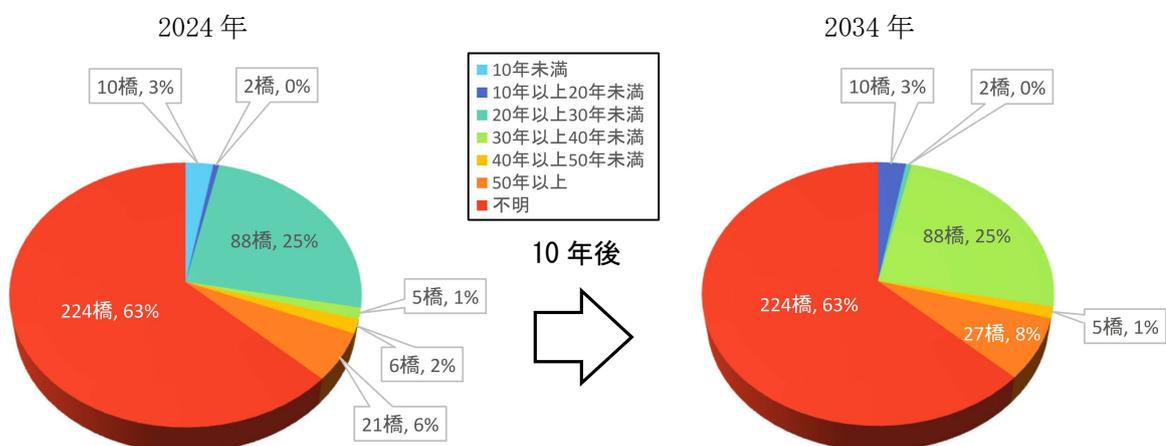
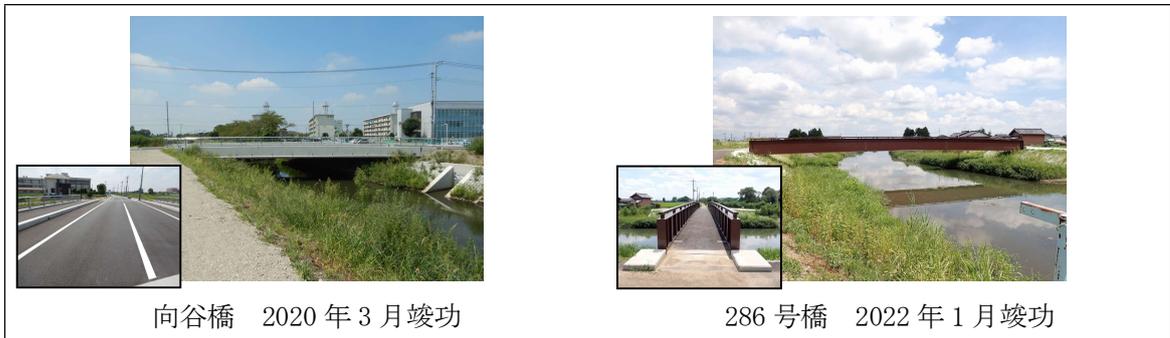


図-1 供用年数別の橋梁数の推移

3. 修繕計画の実施状況

●平成31年度からの橋梁の修繕等の実施状況の一例は以下の通りです。

架替事例



補修事例



図-2 修繕の実施状況の一例

●2巡目点検の実施結果は以下の通りです。

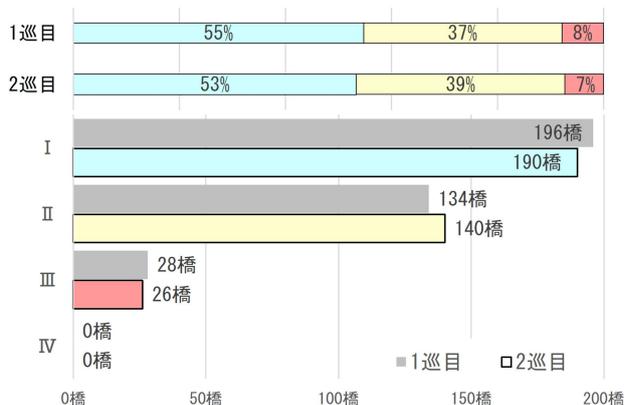


図-3 健全性の区分の推移

表-2 健全性の区分の推移

健全性		1巡目 (H26～H30)	2巡目 (H31～R5)
I	健全	196橋(55%)	190橋(53%)
II	予防保全段階	134橋(37%)	140橋(39%)
III	早期措置段階	28橋(8%)	26橋(7%)
IV	緊急措置段階	0橋(0%)	0橋(0%)
合計		358橋	356橋

※四捨五入により100%にならない場合があります。

4. 維持管理の基本方針

◆老朽化対策の基本方針について

- 小さな損傷が発見された段階で早めに補修を行うことで、橋梁の安全性の確保、維持修繕費用を削減することができる**予防保全型**の維持管理を基本とします。
- 既に損傷が顕在化してしまっている橋梁（健全性Ⅲと診断した橋梁）については**事後保全型**の対応とし、今後の補修により健全性が改善された後に**予防保全型**へと移行させます。
- 効率的で適切な維持管理のため、**新技術の活用**、**撤去・集約化**を踏まえた橋梁管理のマネジメントサイクル(PDCA サイクル)によって持続可能なインフラメンテナンスのためのマネジメントサイクルを構築し、継続的に事業を進めていきます。

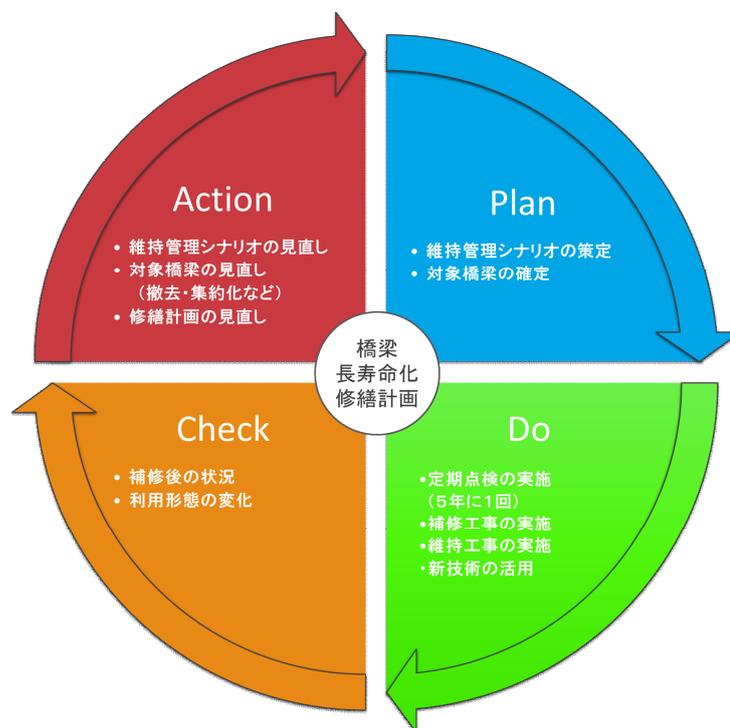


図-4 橋梁管理のマネジメントサイクルの流れ

◆新技術の活用方針について

- 今後の定期点検では「**点検支援技術性能カタログ**」における新技術の活用、修繕工事等の実施では「**新技術情報提供システム (NETIS)**」における新工法や新材料の活用を図り、事業の効率化やコスト縮減に取り組みます。

◆費用の縮減に関する具体的な方針について

- 今後の維持管理費用の縮減を図るために、**新技術を積極的に活用**していきます。
- 地元住民等と協議を行い合意形成を図りながら、損傷状況や利用状況を踏まえ、**撤去・集約**の検討を行い維持管理費の縮減に取り組みます。

5. 維持管理における費用縮減の目標

◆集約・撤去における目標

- 事業計画期間 10 年間の 2034 年度までに、1 橋の撤去を実施することで今後発生する維持管理費について、約 900 万円のコスト縮減を図ります。また、撤去・再編型の維持管理シナリオに該当する他の橋梁は、集約・撤去の事業だけでなく、他の事業の実施状況を踏まえて実施時期の検討を行っていきます。

◆新技術等の活用における目標

- 定期点検では、3 巡目の完了までの 2028 年度までに、橋梁点検車を使用する橋梁のうち、1 橋に新技術の活用を行い約 10 万円のコスト縮減を目指します。
- 小規模橋梁においては、点検作業の効率化・高度化を目的に 1 橋/年の活用を目指します。コスト縮減が図れる新技術の採用が可能となれば対象数の増加を図っていきます。
- 事業計画期間の 2025 年度から 2028 年度までに架替工事を予定している橋梁においてライフサイクルコストで約 3,800 万円のコスト縮減が図れる橋梁形式を採用しています。
- 事業計画期間の 10 年間の 2034 年度までに予定している小規模橋梁の修繕工事では新技術を活用し約 400 万円のコスト縮減を目指します。

6. 今後の管理方針について

- 日常管理としてパトロールを行い、損傷状況の確認、異常等の早期発見に努めます。
- 軽微な損傷の補修や清掃などの維持作業を行い、橋を良好な状態に保つことに努めます。
- 5 年毎に定期点検を行い、橋の損傷状態を把握していきます。
- 地震などの災害発生時には、異常時点検を行っていきます。
- 定期的に計画全体の見直しを行い、**コスト縮減に向け**これらの取り組みを継続的に進めていきます。

7. 今後 10 年間で予定している事業計画

- 点検により診断した健全性に加え、橋梁の利用状況や橋梁下の交差物といった橋梁が持つ重要度の要素を加味したうえで総合的に検討し、事業計画の立案を行いました。
- 今後 10 年間で予定している修繕等の実施予定の橋梁は以下の通りです。

表-3 修繕実施予定橋梁（今後 10 年間）

番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	架設 年次	供用 年数	健全 性	最新 点検 年次	修繕等及び定期点検の時期（2025年～2034年）											
								2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16		
1	大門橋	市道2272号線	4.5	1966	58	Ⅲ	2021	●	○						○				
2	弁天橋	市道0109号線	18.0	1982	42	Ⅲ	2024	●	●	●	●	○							○
3	城沼橋	市道0125号線	7.1	不明	不明	Ⅲ	2020	○	●	●	●		○						
4	260号橋	市道5265号線	10.0	不明	不明	Ⅲ	2022			●									
5	観音寺橋	市道6028号線	6.2	1940	84	Ⅲ	2022			○	●					○			
6	203号橋	市道1052号線	5.9	不明	不明	Ⅲ	2022			○		●				○			
7	内谷橋	市道0122号線	171.9	1971	53	Ⅱ	2021		○					●	○				
8	操舟橋	市道0121号線	7.8	不明	不明	Ⅲ	2020	○						○	●				
9	本田橋	市道0202号線	9.8	1968	56	Ⅲ	2021		○						○	●			
10	358号橋	市道9092号線	9.6	不明	不明	Ⅲ	2022			○							○	●	
11	城橋	市道0234号線	12.4	1958	66	Ⅲ	2021		○						○				●

※本一覧は直近の10年間で修繕を予定している橋梁を示しています。

一覧に記載のない管理橋梁についても事業計画に基づき、定期点検を実施していきます。

● 架替・撤去・修繕

○ 定期点検

8. 計画策定担当部署

- 計画策定担当部署

羽生市役所 まちづくり部 建設課

〒348-8601 埼玉県羽生市東6丁目15番地

TEL:048-561-1121（代表）